書評・Book Review

魚類学雑誌
43(1): 38

北日本魚類大図鑑. ——尼岡邦夫・仲谷一宏・矢部　衛. 1995. 北日本海洋センター, 札幌. 390 pp. ¥12,000 (税込).

本書は1983年に出版された「北日本の魚と海藻」で扱われた魚類に関する情報を大幅に拡充した. 扱われた魚類は239種から570種に増え, そのほとんどがカラー写真で示されている. 本書で扱われた魚類は主として東北地方以北で見られる種類である. 大部分の魚類は寒流性であるが, 暖流によって南方から運ばれてくる魚類も少数であるが, 収録されている. また, 淡水魚も収録されている. 厳しい気候の下で標本を扱い, 良質のカラー写真を撮るのは, 想像以上にきつい仕事である. 従来, 注目されることの少なかった北方系魚類のカラー写真を多数収録した著者の努力に敬意を表する.

本書の構成は, 簡素である. 9–11ページに「本書の使い方」という項目の下で以下の事項が述べられている. 魚種の配列に関する説明, 図版に関する簡単な説明, 和名・学名・地方名・英名・露名を採択した著者の考え, 解説に含めた項目の説明, そして用語説明が続く. 12–342ページにカラー写真を中心として各魚種が示されている. 参考文献は343–346ページに収録され, 意外に短い. 索引は4種類ある. 和名・地方名索引が347–363ページに示され, 学名索引が364–371ページに, 英名索引が372–380ページに, そして露名索引が381–387ページに収録されている. 学名索引は種名 (属名と種小名) で示され, 種小名から引くことはできないので, いささか不便である. 科名は学名索引に含まれている.

本書のカラー写真の質はよい. カラー写真の使い方は贅沢と言ってよいほどである. ベニザケ (p. 78) やウサギアイナメ (p. 155) のカラー写真はこれらの魚の色彩変異を見事に再現している. しかし, ときには贅沢すぎると感じる写真もある. たとえば, サケは6つのカラー写真を用いて2ページに渡って示されている. この中にはなんとホッチャレまで含まれている. 121ページにはグッピー属の2種がかなり大きなカラー写真で示され, 隣のページのホソトビウオやサヨリより体高が大きくなっている. また, カジカ科魚類の多くの種類は1ページに雌雄のカラー写真が収録されていて, かなり余白が目立つ.

本書の長所がすぐれたカラー写真にある反面, 短所は価格の高さ, そして対象読者が絞り切れていないように見える点である. 写真を中心とした出版物に徹するなら, 写真の大きさや本の大きさをもっと小さくして安価にすれば, 多くの人たちに利用されるのではないだろうか. また, 専門家を意識しているとすれば, 魚種の説明は中途半端である. 魚種の特徴に計数形質が含まれていないのは, 大いに不満であるし, 分布や生態に関する説明も魚種当りに使用しているページの面積を考えると簡略に過ぎる. 写真個体の採集地が示されていないのは色彩変異を考慮すると問題である. また, 標本は北海道大学水産学部に保管されていると思われるが, 保管場所に関する説明はない.

一般の人の立場を考え, 北の魚を意識するのであれば, 北海道での詳しい分布状況, 生態情報などを加えてほしかった. また, 地方名も北海道を中心とした独特のものがあるが, 収録語彙は決して多くない. 露名などより, こちらに重点をおいてほしかった. 地方性を売り出すならば, このような点にも工夫が必要ではないだろうか.

上記のような問題はあるが, 本書は北日本の海域にこれだけ多くの魚が生息し, 意外に豊かな色彩をもっていることを明瞭に示している. これまで, あまり注目されることがなかった北方系魚類を紹介した本書の意義は大きい. 北日本の魚類に興味のある会員, 分類や生態を研究する機関には勧めたい本である.

(松浦啓一　Keiichi Matsuura: 〒169 東京都新宿区百人町3–23–1　国立科学博物館動物研究部)